

# 大学連携授業におけるプロセス・エデュケーションの設計： フィードバックの心理的安全性への影響

田中洋一<sup>\*1 \*2</sup>, 山川修<sup>\*3</sup>, 合田美子<sup>\*2</sup>

\*1 仁愛女子短期大学, \*2 熊本大学教授システム学研究センター, \*3 福井県立大学

## Designing Process Education in University Collaborative Courses: The Impact of Feedback on Psychological Safety

Yoichi TANAKA<sup>\*1 \*2</sup>, Osamu YAMAKAWA<sup>\*3</sup>, Yoshiko GODA<sup>\*2</sup>

\*1 Jin-ai Women's College,

\*2 The Research Center for Instructional Systems, Kumamoto University,

\*3 Fukui Prefectural University

ふくいアカデミックアライアンス (FAA) 科目として開講する「ファシリテーション基礎」におけるプロセス・エデュケーションの設計と実践結果を報告する。特に、フィードバックによる心理的安全性への影響について、リフレクションシートを考察する。

キーワード: プロセス・エデュケーション, 心理的安全性, フィードバック, リフレクション

### 1. はじめに

福井県内すべての大学等が参画する協議体「ふくいアカデミックアライアンス (FAA)」は、大学間や産業界等との連携を強化し、福井県の人口減少対策や地域産業の活性化等に貢献していくことを目的として、2019年に設置された。福井県立大学は、8月に FAA 科目「ファシリテーション基礎」(以下、本科目と記す)を集中講義で開講している。筆者は、2020年度及び2021年度の1日分「プロセス・エデュケーション」の回を担当している。本稿では、筆者が担当した本科目の授業設計を報告する。特に、チームメンバー同士によるフィードバックによる心理的安全性の影響に関して、ワークごとの振り返り用紙及び1日の最後に記述する自己振り返りシートを考察する。

### 2. 授業設計

本科目では、1日目にマインドフルネス、2日目にライフデザイン・ポートフォリオ①、3日目にライフデザイン・ポートフォリオ②、4日目にプロセス・エデュケーション、5日目にファシリテーションスキルを学ぶ。

2020年度は、COVID-19対策として、急遽 zoom を用いたリアルタイム配信 (同期型) のオンライン授業 (毎日 9:30~17:00) で実施した。学習支援システムとしては、福井県立大学の G Suite for Education 及び zoom をメインに用いた。Google Classroom を学習ポータルサイトとして、Google ドキュメント, Google スプレッドシート, Google スライド, Google フォーム, Jamboard を連携して活用した。2021年度は、面接(対

面) 授業にて実施した。

筆者が担当したプロセス・エデュケーションに関しては、2019年度に受講したJIEL(日本体験学習研究所)のラボラトリー体験学習基礎講座から3つのワークを実施した。津村(2019)は「学習者がプロセス(関係的過程)に着目することにより、自らの関心に基づき、課題を見出し、それを解決しようとする深い学びが起こること」をプロセス・エデュケーションと呼ぶ。ラボラトリー方式の体験学習は、「人と人が関わる場において、『今、ここ』での参加者の体験を素材に、人間や人間関係を参加者とファシリテータが共に探求する学習(津村2019)」であり、プロセス・エデュケーションの核である。

2021年度、本授業の筆者担当回に行ったワークは下記のとおりである。4日目における履修者は6名だったため、2グループに分けて実習を行った。

⑤ チェックイン(車座)

① 活動的な実習「名画鑑賞」

グループプロセス(グループの中で、お互いの間で起こっていること)に目を向ける。体験から学ぶことを学ぶ。教師の指示で模造紙に一人ずつ線や図形を描き足し、タイトルを決める。

② ボードゲーム「じっくりミレー」

名画に登場する人や生物の気持ちを想像する。芸術家役の人が想像した「気持ちカード」をみんなで予想して答え合わせ。選んだ理由をきいて、納得したりビックリしたり。

③ 正解のないコンセンサス実習「ボランティア」

コンセンサス(全員の合意)による集団決定の過程を通して、各自のものの考え方や価値観に気づき、お互いの理解を深める。

④ 活動的な実習「タワー・ビルディング」

グループで話し合い、規定の材料(紙等)でタワーを作る過程で、お互いの間で起こることに気づき、その体験から学ぶ。

⑤ チェックアウト(車座)

2020年度は、オンライン授業だったため、④「タワー・ビルディング」の代わりに問題解決実習「ハッピーファーマーズ」(グループで問題解決の実習をする過程で起こるメンバーの参加態度、コミュニケーション、リーダーシップ、情報の扱い方などに気づく。メールで各自に与えた情報を対話で組み合わせ、正解を導く。Jamboardを活用。)を実施。順番としては、①名画鑑

賞、②ハッピーファーマーズ、③ボランティアで実施。

①③④のワーク後には専用の振り返り用紙で自分のことやメンバーのことをリフレクションした上、口頭でグループメンバーに共有(フィードバック)した。

1日の最後には自己振り返りシート(①今日の活動の中で驚き、興味、不満、不安、違和感等は感じましたか?、②それらの経験から何がわかりますか?あなたにとって、それはどのような意味をもちますか?

【発見】、③発見を活かすために考えられることは何ですか?、④今日の感想を自由に書いてください)を毎回記述した。

### 3. リフレクションシートの考察

#### 3.1 ワークごとの振り返り用紙

①活動的な実習「名画鑑賞」の振り返り用紙

グループの中でのコミュニケーションについては、下記の記述があった。「うなづいたり、あいづちをうったりして話を聞くことで、ちゃんと聞いてもらっていると感じた。」「各自の発表の際、全員が全員の話に、ちゃんと耳を傾け、相づちを打ちながら聞いていた。」「聞いてもらう人の目を見て話すように意識した。また、なるべくうなづいたり応答したりした。他のメンバーも話を聴く時に、うなづくよう意識していた。」「説明する時に、なるべく手振りを加えた。思いついた時は、すぐ話すようにした。意見が出た時に、すごく共感してくれた。」

グループの意思決定の仕方については、下記の記述があった。「話し合いで意思決定をしようとしたが、話がつまることが多く、無言の時間も続いてしまった。」「かなり悩んで、沈黙が続いた。なかなか決まらなかったため、自分が促したり、何かコミュニケーションを取ったりできたらよかった。最終的に、全員が納得できる題名にすることができて良かった。」「それぞれが思ったことを話して、それいいね!と、みんなが納得できるものを探した。」

グループの中でのお互いの影響関係については、下記の記述があった。「最初に1人が話し始めることで、2人目以降が話しやすくなった。それぞれが意見を言うことで、選択肢を絞ることに繋がった。」「他のメン

パーに、どう思うかを尋ねるシーンが多々あり、お互いに話すチャンスを与え合っていた。話を振られたら、自分の考えを言うことができ、意味のある行動になっていた。「今回は意見を聞く側として働きかけたが、上手にできなかった。最終的に意見もまとまらず、少し気になっている。自分自身の役割を考え、動くことが大事。」「Aさんは、最初に発表して、話しやすいようにしてくれた。Bさんは、案を出して、発言を促してくれた。二人とも、発言しやすい環境を作ってくれた。自分は、発言するだけだった…」「誰から話す？等の会話はなく、誰かが積極的に話し出してくれたことで、話し合いがスムーズに始まるという影響を与えていた。」「Aさんは、意見が出なかった時に進めてくれた。Bさんは、連想していた時に前の意見を絡めて言ってくれたので、具体的になった。全員が共感の言葉（あー、それしっくりくる等）を口に出しながら話していて、話しやすかった。」

## ②正解のないコンセンサス実習「ボランティア」の振り返り用紙

「あなたは、どの程度、自分の意見や考え、アイデアを言うことができましたか？」への回答（6件法）では、6が2名、5が4名。6を選択した意見は、「自分から話を進められた」であった。5を選択した意見は、「思ったことは、ほとんど全て伝えたり、伝わったと感じた。」「いつもの大学の授業だと黙ってしまうことでも、しっかりと言うことができました。」「自分の意見は、きちんと言えたけど、自分から話し始めることができなかった。」であった。

「あなたは、どの程度、他のメンバーの意見や考え、思いを聴くことができましたか？」への回答（6件法）では、6が4名、5が1名、4が1名。6を選択した意見は、「相手の意見を聞きながら、あいづちすることができた。」「相手の話に相づちをうち、その後、自分の考えも述べられた点。」であった。5を選択した意見は、「話の途中で言いたいことを聴ききれなかった」であった。4を選択した意見は、「発言し合うことはできたが、質問があまり出来なかった」であった。

「討議のプロセスで気づいたこと、あなたが意識的

に心がけたことは？」については、下記の記述があった。「誰を選ぶのか決める際、何に重点を置くかを意識した。」「意見を平等に聞いていくこと。自分の考えばかりを前に出さないこと。」「自分とは異なる意見を持っている人の考えを否定するような発言は控え、いいなと思った時には素直に肯定する。」「評価方法やメリット・デメリットを挙げること。」「良いところ、悪いところを聞くだけではなく、何でそう思うのか、思った理由をしっかりと聞いたり言ったりすること。」

「グループ討議中、他のメンバーの言動で気づいたことは？ また、それらがグループやあなたに、どのような影響を与えたか？」については、下記の記述があった。「Aさん：問いかけをしてくれたことで、意見が出しやすくなった。Bさん：あいづちをうって聞いてくれて、話し手が安心して話せるようになった。」「Bさん：『みんなの話を聞いていて、私もそう思いました。』という言葉を受けて、全員がそこから各自の考え方を発することができた。Cさん：うなづき、声を出すくらいのリアクションをしてくれることで、話し手は、とても話しやすくなった。」「Aさん：説得力のある説明と、もしかしたら…のイメージがすごく面白みを感じた。Cさん：意見をはっきり言うけど、しっかり意見を聞いて、考え直すところが良い。Bさん（自分）：自分の意見をはっきり言う、聞いて、それに反応する→グループが話しやすくなる潤滑油になると考えた。」「Dさん：○を2人の中に入れるのはどうか？→○を外すという考えの促進。Eさん：△にとって、1年間のボランティアはどうか？→新しい視点から考え直す手助け。」「Fさん：説明や選んだ理由を説明する時、評価点を詳しく言い、理解しやすかった。Eさん：選んだ理由だけではなく、選ばなかった理由も挙げた。予想できなかった視点を挙げて、判断する基準が深まった。」「Dさん：判断基準を明確にしようという言動で、話し合いが進みやすくなった。Fさん：自分がモヤモヤして言葉にできず心に残っていた際、『同じ目線に立って』という言葉に納得できてスッキリした。Eさん（自分）：選ぶ理由ではなく選ばない理由を聞いて、少し整理できたかもしれない。」

「この実習を通して、気づいたり、学んだりしたこ

とは？」については、下記の記述があった。「自分の意見を通すために相手を論破するのではなく、それぞれが選んだ理由や選ばなかった理由を述べることで、共感できる部分があり、自分の意見が変わることを感じた。」「考え方や捉え方が人それぞれ違い、色々な考え方があり面白かった。「共感」すること、されることは、とても大事だと気づいた。」「メンバーの意見も自分で受け止め、考え直すことができた。」「自分一人で考えている時には、これはないだろうと考えていたものでも、他の人の意見を聞くと、考えが大きく変わることがある。」「共感することが大事。話し合いでは判断基準（選んだ理由や選ばなかった理由）を言うことがとても大切。少数意見を聞いていると、自分が考えていなかった視点を見つけられる。」「人それぞれ、重きを置く部分が異なっていたり、同じ文章でも注目するポイントが違っていたりするの面白い。」

### ③活動的な実習「タワー・ビルディング」の振り返り用紙

「あなたは、どれくらい参加した実感がもてましたか？」への回答（6件法）では、6が5名、5が1名。6を選択した意見は、「自分の役割があり、物事に取り組めた。」「最初はピラミッド型にする予定だったが、制作中に、もっと良い方法を提案できたから。」等であった。5を選択した意見は、「みんなと話しながら、方向性を見出そうとしていたから。」であった。

### 3.2 自己振り返りシート

4日目「プロセス・エデュケーション」終了時に書いた自己振り返りシートにおける心理的安全性に関する記述を下記に示す。「今回の授業を通して、話しやすい空気感を作っていくことは改めて大事だと感じた。特に、タワー・ビルディングでは、改善し続ける空気を作っていくことが重要だと実感した。今まで大学でのグループワークでは自分の意見があまり言えなかったが、今回は思ったことをすぐに言えた。言えた理由として、肯定してくれると信じて話せたこと、やってみようと言ってくれたことが大きかった。」「うなづくだけでも話しやすい空気を作れるが、肯定的な言葉(良

いね、そう思う等)を意識して出していると、意見が言いやすい空気が作れる。」「誰かが率先して話すことや出てきた意見を肯定するような発言をしていくことが重要。また、なぜ選ばなかったのかや逆の意見を聞くことで、より深められる。このようなことが心理的安全性を作っていくことにつながる。」「率先垂範と同僚支援を意識してグループワークに参加していきたい。自分がいるとグループワークが楽しいとか安心するというような存在になりたい。」「他の人の意見を聞き、それを認め合うことの大切さを学んだ。その場の雰囲気がとても大切になるので、穏やかな共感し合うことのできる場を作れるようになりたい。」「今日の授業を受けて、とても心が通じたというイメージが強かった。お互いが納得できるまで話し合いを続けられる関係、環境作りが大切。」「人の立場に立ち、自分ならどうする？と考えながら話を聴き、違いを知って楽しみたい。」

## 4. おわりに

各ワークの振り返り用紙及び4日目の自己振り返りシートを考察した結果、プロセス・エデュケーションにおけるフィードバックは、チームの心理的安全性を培うために重要だったようである。今後は、心理尺度等による分析を用いて、心理的安全性に対するプロセス・エデュケーションの効果を明らかにしたいと考えている。

### 謝辞

本研究は、JSPS 科研費 JP 19K03100 及び 20H01727 の助成を受けたものです。

### 参考文献

- (1) 津村俊充: “改訂新版 プロセス・エデュケーション: 学びを支援するファシリテーションの理論と実際”, 金子書房 (2019)
- (2) 田中洋一ら: “オンライン授業におけるプロセス・エデュケーションの設計: フィードバックの心理的安全性への影響”, 日本教育工学会 2021 年春季全国大会講演論文集 pp.317-318 (2021)